

授業科目	成人看護学方法論Ⅰ	実務経験	開講時期	単位数	授業形態	時間数
		◎	2年次前期	1単位	講義・GW	30時間
到達目標	1. クリティカルケアを必要とする対象を理解し生命の危機状態を脱し回復へ向かうための看護を理解する。 2. 周手術期にある対象を理解し周手術期の経時的变化を捉えながら合併症を起こさず回復するための看護を理解する。 3. がん看護の方法を理解する。 4. 終末期にある対象と看護の方法を理解する。					講師
						救急認定看護師 手術看護認定看護師 専任教員 がん化学療法看護認定看護師 看護師 がん性疼痛看護又は緩和ケア看護認定看護師
授業計画						
1回	クリティカルケア看護の特性、クリティカルケア看護の対象の特徴、実践に必要な能力					救急看護認定看護師 (6時間)
2～3回	クリティカルケア看護の実際(観察と全身状態のアセスメント、生命を維持するためのケア-体液・循環管理、ME 機器管理、危機状態にある対象・家族のケア)					
4～6回	手術療法と生体反応の基本、周手術期にある対象の特徴、看護の特徴、周手術期看護の実際(術前の看護(対象の理解・手術に向けた準備)術中の看護(手術室の環境-手術室の看護師の役割-手術室入室から執刀までの看護-麻酔維持期の看護-麻酔終了から手術室退室までの看護-手術室における医療安全)術後の看護(対象の理解-術後合併症管理-疼痛管理-創傷管理-ドレーンの管理))					
7～10回	周手術期看護における看護過程の特徴、アセスメントの視点、主要なクラスターのアセスメント(GW)、アセスメント、問題点の抽出方法(GW)問題点の明確化					専任教員(8時間)
11回	がんの統計、がん薬物療法、インフォームドコンセント、危機理論と看護支援、がんサバイバシップ、抗がん剤の投与管理					がん化学療法看護認定看護師(4時間)
12回	抗がん薬の有害事象とセルフケア支援(血液毒性、非血液毒性)、がん薬物療法における多職種チーム医療)					
13回	放射線療法を受ける対象の特徴と問題、看護、日常生活への援助					看護師(2時間)
14～15回	緩和ケアの歴史、終末期-緩和ケア-QOL とは、わが国のがん対策、緩和ケアにおける倫理的課題、身体的ケア、精神的ケア、社会的ケア、スピリチュアルケア、家族ケア、遺族ケア					がん性疼痛看護又は緩和ケア看護認定看護師(4時間)
評価方法	修了試験 選択肢選択又は論述問題(100%) 救急看護認定看護師(30%)、手術看護認定看護師(30%)、専任教員(10%)、がん化学療法看護認定看護師(10%)、看護師(10%)、がん性疼痛看護又は、緩和ケア看護認定看護師(10%)を総合して評価する					
教科書	救急認定看護師：系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護 医学書院 手術看護認定看護師：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 専任教員：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 看護過程に沿った対症看護 学研メディカル秀潤社 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程+病態関連図 医学書院 がん化学療法看護認定看護師：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学④臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 看護師：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学④臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 がん性疼痛看護又は緩和ケア看護認定看護師：系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学④臨床看護総論 医学書院					
備考	予習においてはテキスト、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。復習においてはテキスト・講義資料・参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。					